

経営部門

岡山県真庭市

石賀博和・石賀恵子

地域資源を生かした 低コスト肉用牛繁殖経営

平成 17 年度（第 44 回）農林水産祭天皇杯

平成 16 年度全国優良畜産経営管理技術発表会最優秀賞



石賀さんご夫妻

石賀博和・恵子氏の経営は、蒜山高原の南端、町界域の急峻な峠へと続く中山間地域にある。地域の土地資源を生かした飼料生産や放牧、省力化、技術改良等に取り組み、低コストでゆとりをもって成雌牛 59 頭を飼養する経営である。

経営主の博和氏は、昭和 50 年に稲作とたばこ作、繁殖牛 2 頭の複合経営の後継者として就農した。経営移譲後、花き栽培にも取り組むなど試行錯誤の時期もあったが、昭和 63 年に稲作以外の耕種部門を中止して増頭を行い、平成 14 年に成雌牛が 57 頭に達した段階で稲作も中止し専業経営に転換した。この間、規模拡大にあたっては、飼料生産基盤の拡充を前提に進めてきた。

経営の特徴をあげると、第 1 に地域の土地資源の活用である。典型的な条件不利地域で進む高齢化、離村等に伴って発生する転作田や耕作放棄地等の活用と、ロールベール体系の機械を導入して飼料生産（約 15ha）に取り組み、自給飼料依存型の経営を行ってきた。また、かつての地域の採草地 16ha を借り入れ、牧柵設置によって放牧地として利用している。

第 2 は、効率的低コスト生産の実施である。放牧や群管理による省力化、連産性の維持、自給飼料に裏付けられた飼料給与、省力かつ低コスト畜舎の建設、敷料に回収イナワラや地域で発生するエノキダケの廃菌床を利用する等によって子牛 1 頭当たり生産原価が 18.7 万円強となっている。なお、省力管理により夫婦 2 人で年間 2000 時間強、成雌牛 1 頭当たり 35.5 時間のゆとりある経営を行っている。

第 3 は、意欲的な牛の改良への取り組みである。自家産子牛の肥育成績を収集し、自家の育種価の低い牛や地域の酪農家と連携して、改良速度を高めている。この結果、県内育種価評価基準 A ランク以上の繁殖牛が 34 頭と所有牛の 5 割を超えている。

第 4 は、高い繁殖技術である。個体管理の徹底による受胎率の向上を図り、平均種付回数 1.23 回、分娩間隔 12.0 ヶ月となっているほか、放牧によって耐用年数が延長し平均月齢は 95 ヶ月となっている。

このほか、地域の肉用牛農家との研究会活動や、地域の酪農家との ET や共同作業等の実施、耕種農家の土地資源の活用など、多くの人的資源も積極的に活用し、相互に情報交流することで自らの経営改善につなげている。

以上のような取り組みを行い、年間所得 1196 万円、所得率 62% の高い収益性をあげている。

なお、今春に後継者の就農も決定し、今後も安定的な経営の継続が見込まれている。

▼放牧場

約 16ha の放牧地では、4 月～12 月の間、昼夜放牧を行っている。



▼遊休農地の利用

近隣の転作田や耕作放棄地等を借地し、飼料作物を生産している。



▼分娩・ほ乳牛舎

子牛は4ヶ月齢まで母牛と同房で飼養し、初乳を十分に飲ませている。



▼牛名盤

1頭ごとに繁殖記録を書き込んでいる。



▼フリーバーン牛舎

分娩前の牛、群飼が困難な牛、離乳直後の牛を3群に分けて管理している。敷料にはイナワラ、オガクズのほか、地元で発生するエノキダケの廃菌床を利用している。



▼夫婦同伴視察研修会

市内の比較的大規模肉用牛農家が集う「まにわ和牛研究会」では相互研鑽のための各種活動を行っている。（写真は夫婦同伴視察研修）。

